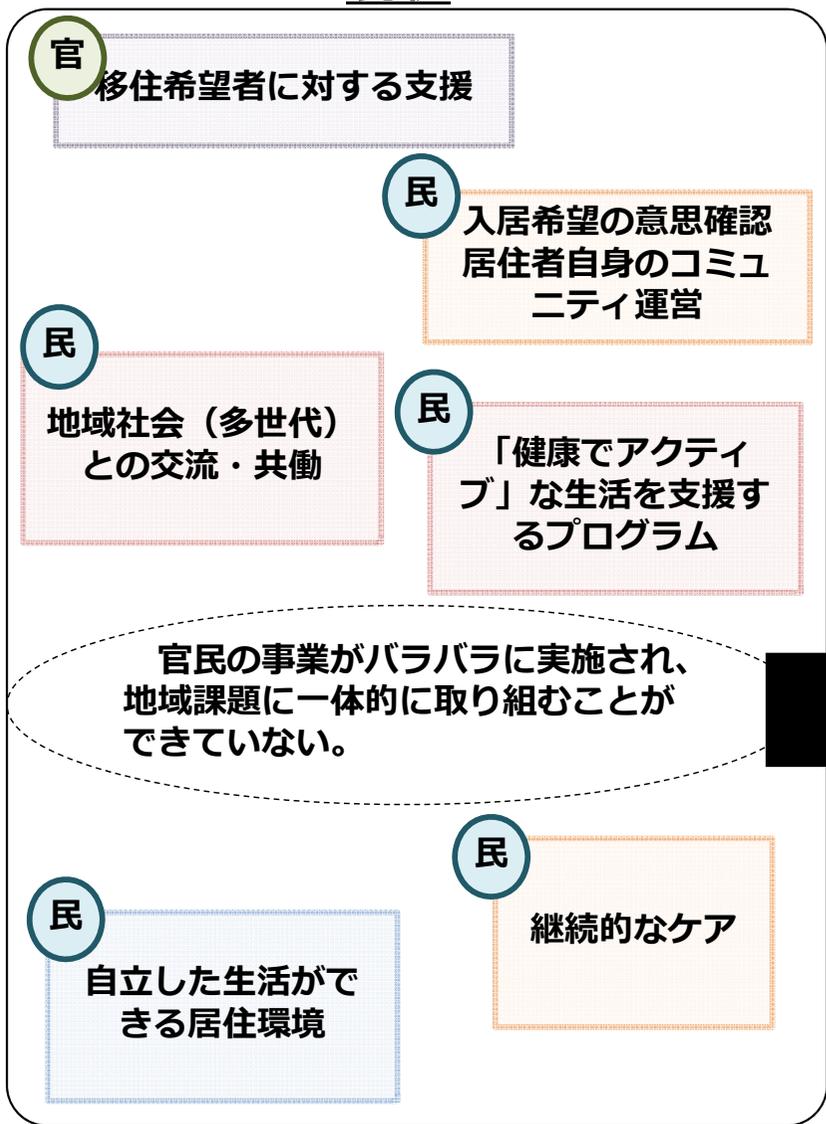


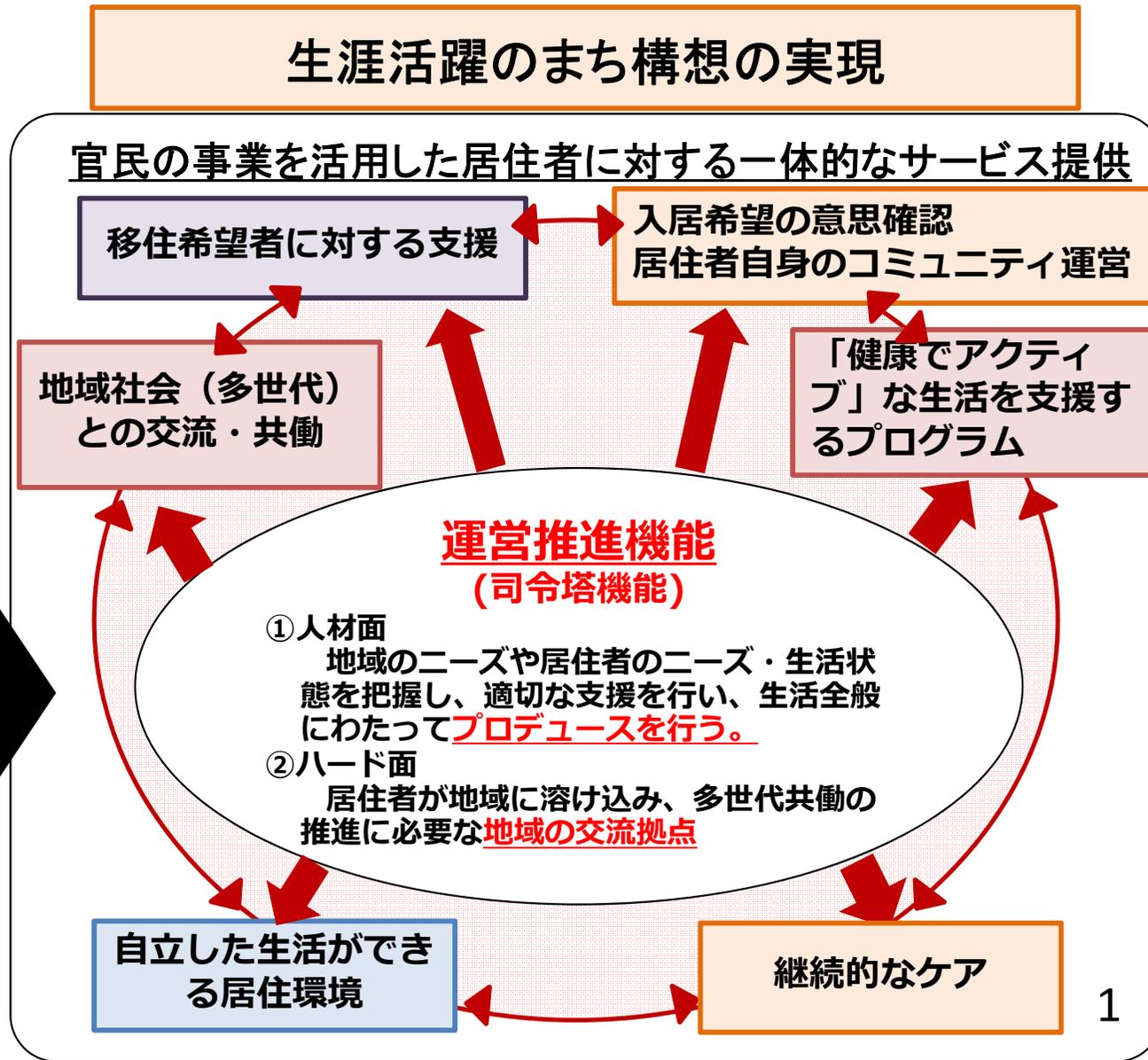
運営推進機能のイメージ（全体像）（案）

- 現状では、官民の事業がバラバラに実施されており、地域課題に一体的に取り組むことができていない。
- 生涯活躍のまち構想の実現には、官民の事業を一体的に実施するための運営推進機能を担う、①地域ニーズや居住者のニーズ・生活状態を把握し、適切な支援を行い、生活全般にわたってプロデュースを行う人材の配置と、②居住者が地域に溶け込み、多世代で共働を行うための地域の交流拠点の整備が必要不可欠。

現状



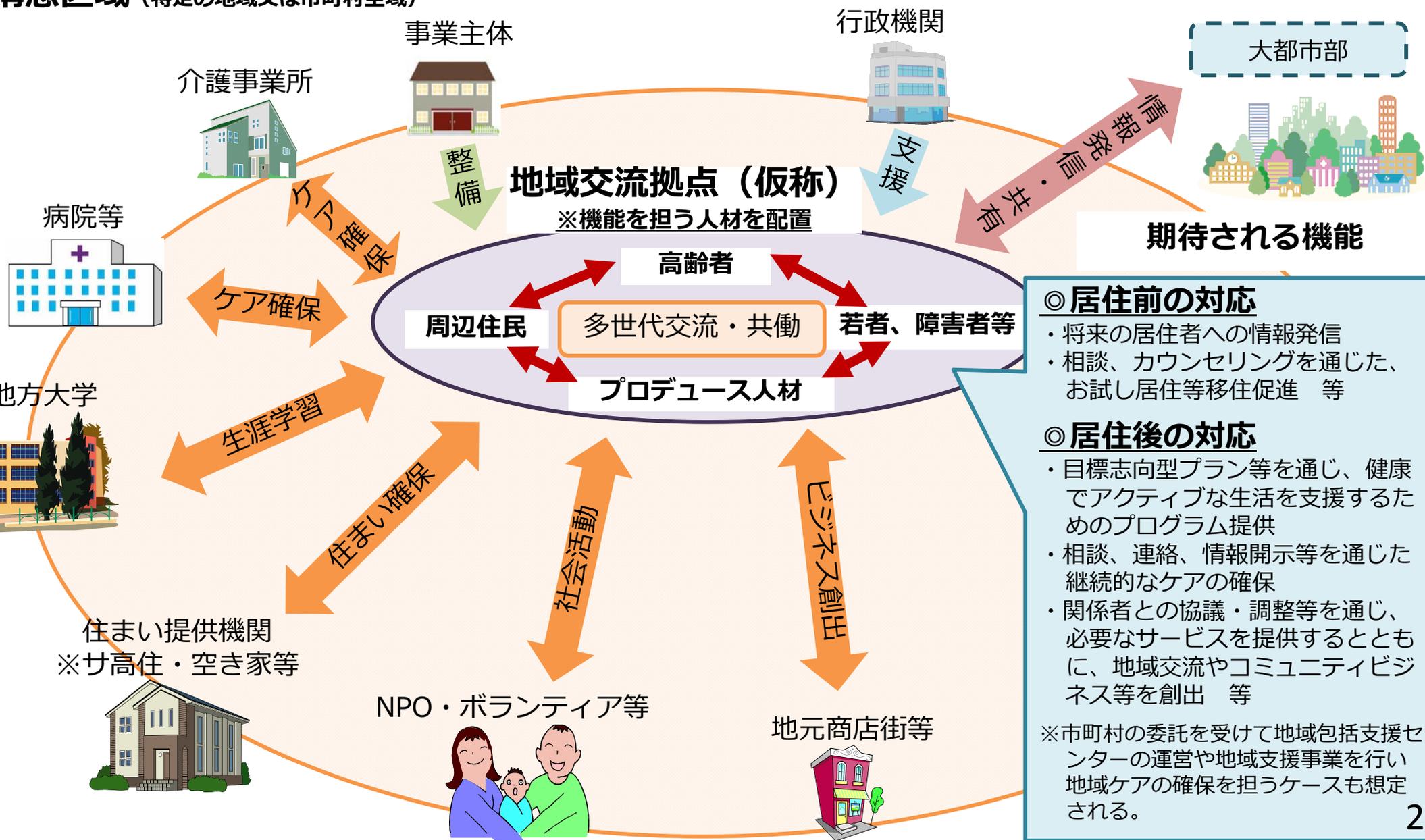
生涯活躍のまち構想の実現



運営推進機能に期待される役割・機能（案）

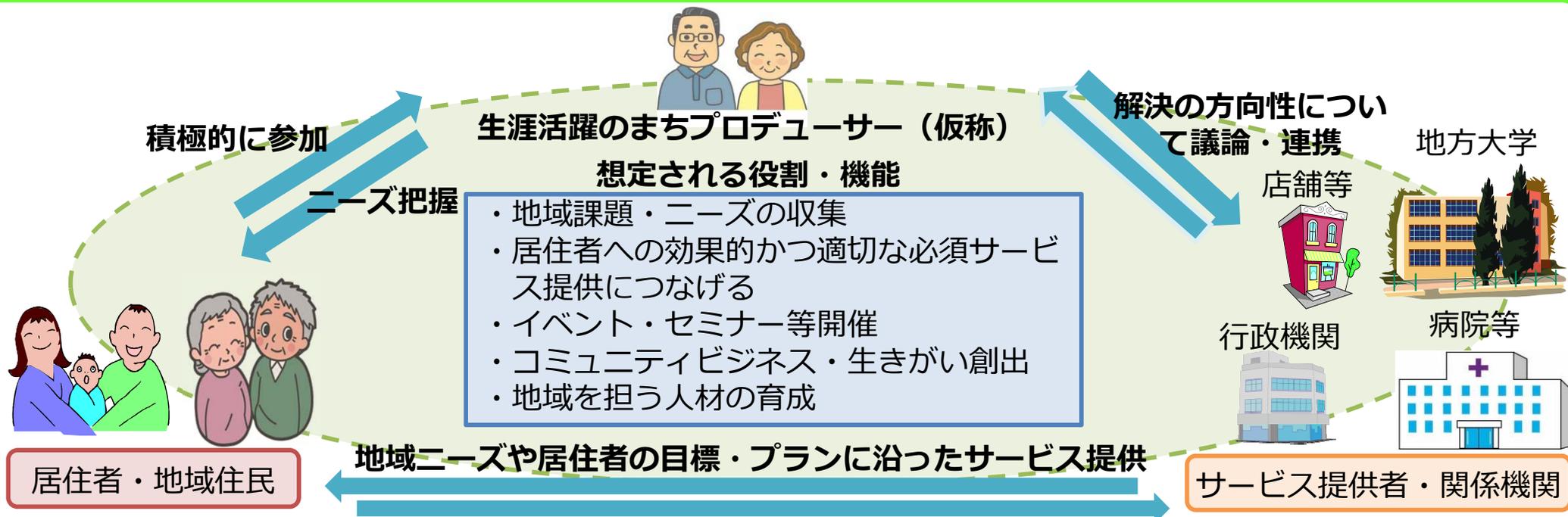
- 事業主体は、地域交流拠点（プロデュース人材を配置）を整備するとともに、構想を推進する区域内の関係者との連携・協力体制を確保。
- 地域交流拠点を通じて、関係者の連携・協力のもと、多世代交流・共働や高齢者等に必要なサービス提供がなされる。

構想区域（特定の地域又は市町村全域）



運営推進機能のうち人材面（プロデューサー）の役割（案）

生涯活躍のまちプロデューサー（仮称）の役割イメージ



想定される主体

- ・ 地域づくりや生活支援に関する専門的知見を備えた人材を配置
- ※運営推進機能を担う法人を創設することも

期待される役割

- ・ 課題・ニーズを把握し解決の方向性を示していく。
- ・ 居住者自身で課題解決できるよう主体性を尊重。

PDCAサイクルのもと運営推進機能を発揮

Plan

生涯活躍のまちの具体像
（地域の強み・弱みは何か）
入居希望者と話し合い
地域との話し合い

Do

入居当初：移住支援・お試し
生涯活躍プランの作成支援
プランを実行に移す支援

Check

社会参加・活動状況
満足度・生きがい感・健康度
地域社会との関係：交流・共働

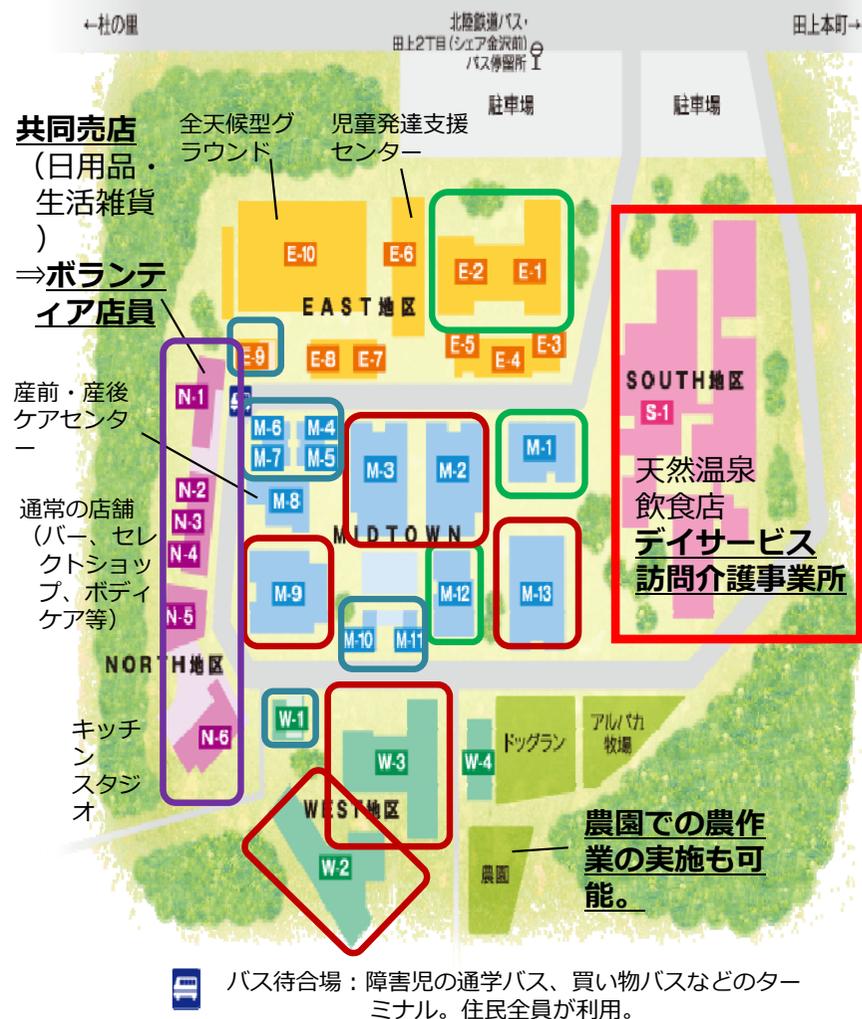
Action

生涯活躍のまち運営の改善
生涯活躍プランの改善
地域社会との関係改善

(参考1) シェア金沢

◎シェア金沢の全体像（総面積：約11,000坪）

- : サービス付き高齢者向け住宅
- : テナント
- : 障害児入所施設
- : 学生向け住宅



プロデュース人材

◎人材配置

- ・専従スタッフを置かずに、各支援員（障害児、高齢者福祉等）からピックアップしプロデュース担当班を形成。

◎コーディネートの内容

- ・地域・多世代との交流の在り方、居住高齢者のニーズ、テナントニーズ、絆の森の会（学生、高齢者等で集うシェア金沢内の自治会）とのシェア金沢の運営に関する話し合い等、シェア金沢を含む周辺地域全般の課題・ニーズを取り扱う。
- ※「住民参加型開発援助」というまちづくりの手法を活用。

◎運営方針

- ・課題・ニーズが何かを浮き彫りにし、解決のきっかけや話し合いの段取りをつける。あくまで、当事者の自主的な運営を尊重し、運営が円滑になるようサポートの役割を担う。

地域住民や多世代が交流できる「地域拠点」

◎交流を促す仕組み

- ・地域に古くからあったなじみのある飲食店を誘致。温浴施設は一般にも開放。これらの施設で障害児の就労支援も行う。
- ・家庭菜園や近所の農家の野菜を販売し、地産地消を推進。
- ・まちに住居を構える美大生にギャラリーを提供。
- ・講演会やパーティーを開催。

◎施設の配置の工夫

- ・高台に拠点を配置し、大きな窓からまち全体を見渡せる工夫。
- ・多世代（障害児・高齢者・学生）の住居をバラバラに配置。

(参考2) ゆいま～る那須

◎ ゆいま～る那須の地域交流拠点

地域に開かれた食堂



地域に開かれた各種レクリエーション施設



プロデュース人材

◎ 人材配置

- ・社員、地元住民、入居者からなる「ゆいま～る那須をつくる会」を形成。

◎ プロデュースの内容

- ・必要なサービス等は入居者で話し合い創出する。
- ・各部会の成果や運営状況（課題、ニーズや決算書等）を共有する運営懇談会を定期的開催。

◎ 「継続的なケアの確保」

- ・入居者を中心に完成期（終末期）医療・福祉部会を組織。自分らしく最後まで住み続けられるよう必要な支援・サービスを共に考え実践していく。
- ・地域の資源（訪問看護事業所等）を掘り起しネットワーク。入居者の看取りのニーズに応えるために地域の在宅介護・看護・医療を発掘し連携。

地域住民や多世代が交流できる「地域拠点」

◎ 交流を促す仕組み

- ・ワーカーズコレクティブま～る※を創設し地域課題の解決に入居者、地域住民、他の地域の方々と取り組む。
- ・地域の農園を借り、野菜を栽培、余った部分は食堂に販売していく。
- ・食堂等共用スペースを地域住民に開放。食堂では地域住民がスペースを活用して月1回喫茶店をオープン。
※一口1万円程度を出資し、全員が対等な立場で経営に参加。参加者の希望に応じた働き方で参画する。現在は、食事の提供、送迎、見守り等を実施。

◎ 施設の配置の工夫

- ・食堂等は土足禁止（地域の乳幼児も利用可のため）、入りやすいよう大きめの入り口を二つ設置。